

2020年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490800404	事業の開始年月日	平成29年12月1日
		指定年月日	平成29年12月1日
法人名	株式会社 ソラスト		
事業所名	グループホームソラスト 富岡		
所在地	(236-0052) 横浜市金沢区富岡西6-43-31		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計	9 名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	令和2年12月27日	評価結果 市町村受理日	令和3年5月31日

基本情報リンク先 <https://center.rakuraku.or.jp/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは主に外出をメインとした活動を行ってまいりました。例年なら八景島や金沢区の花火大会見物、地元ケアプラザで開催されるお祭り、地域の夏祭りと多くのイベントに参加してきましたが、今年はコロナウイルス感染症の蔓延という事態になり、それぞれの外出イベントを中止せざるを得ませんでした。その為今年は近隣の八百屋さん等の買い物やお散歩という形でしか行う事が出来ませんでした。来年度は当ホームの本来の活動を行えるようになればと切に願っております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年2月22日	評価機関 評価決定日	令和3年5月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、京浜急行線「能見台駅」から徒歩約15分の住宅街にあります。道路を挟んだすぐ前が富岡西公園で、運動場、ローズガーデン、自由広場や子供広場があります。2階建てで1階が共有スペース、2階が居室の1ユニット型グループホームです。

<優れている点>

「安心・安全・たのしい我が家」を基本理念として、その実現の為に「その人らしさ」を大切に日頃の支援を行っています。各シフトの職員は体操・入浴・レクリエーション・散歩などを通じて、一人ひとりとの接触を心掛けています。「夢をかなえる個別ケア」企画では、一人ひとりの希望を聞き出し、思い出や馴染みの場所を訪問して、安らぎを感じてもらっています。日常生活でも近くの公園の散歩や馴染みの八百屋への買い物同行など、積極的に外出機会を作っています。町内会や地域ケアプラザ、地域グループホーム連絡会との連携があり、防災訓練への近隣住民の参加やボランティア訪問など、地域との交流を積極的に行っています。金沢区役所の関係する各課との連携も取れています。

<工夫点>

「気付きシート」というセルフチェック様式で、各職員がスピーチロックや言葉遣いについての気付きを記録して、より良い支援の資料にしています。職場改善の要望などについて、法人に直接連絡出来る仕組みが出来ています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームソラスト 富岡
ユニット名	

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	ご自分の家と思って頂き、お一人ごとその方のペースで生活して頂き、その方らしさを理解しケアに繋げるよう心掛けております。ただ残念なことに今年は外出を控えざる状況のため、入居者様の思いに繋げることが出来ないことが多く、歯がゆさを感じております。	「安心・安全・たのしい我が家」を基本理念とし、その実現の為に「その人らしさを大切にしたい支援」を心掛けています。早番は体操、昼番は入浴とレクリエーション、遅番は散歩、夜勤は一人ひとりとの会話などを通じて、楽しい我が家を感じてもらえるように日々の支援を行っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ご近所の商店にお散歩を兼ねて外出したり、地域ケアプラザの催し物が再開した時は、見物に行かせて頂いたりと今現在の状況で、出来る範囲のものに取り組んでおります。	防災訓練に町内会の防災サポーターが参加したり、夜間対応避難訓練では近隣の方の協力を得ています。近くの富岡地域ケアプラザでの催事にも参加しています。地域のボランティアには、今も感染対策を行った上で訪問してもらっています。馴染みの八百屋に職員と一緒に食材の仕入れに行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	大型スーパー等、人が大勢集まるような場所へ外出し、時々他のお客さんとお話をしたりする形で、認知症の方への理解を深めて行ければと思い取り組んできましたが、今年はそのような活動が一切出来ておらず、とても残念に感じております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ホーム内の活動状況は勿論、体調を崩された入居者が居た場合、その報告もきちんと行っている。また身体拘束適正化委員会では、具体的な事例をあげ、いかに身体拘束へ移行せずにケアを行うかという事を話し合い、ホームのケアに生かせるよう努めている。	富岡地域ケアプラザの社会福祉士・ケアマネジャー、訪問看護師、民生委員、家族、職員などが出席し、2ヶ月ごとに開催しています。事業報告・事故ヒヤリハット報告をし、出席者の意見を聞いています。会議での情報交換で、市の見守りSOSに申請をしています。身体拘束適正化委員会を同日に開催しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	金沢区グループホーム連絡会に参加しそこに参加される区の高齢支援課の職員さんと意見交換等を行うのですが、今年はコロナの影響により、事実上開催されていない。今後どのような形で協力関係を築いていくのか検討していく必要がある。	金沢区グループホーム連絡会で高齢・障害支援課との情報交換、区の感染症研修会への参加、生活支援課の定期訪問、民生委員の運営推進会議参加、介護相談員の定期訪問など、金沢区との連携・協力関係は密接に取れています。(コロナ禍での現時点では、様子見となっています。)	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に勉強会を開いて、全職員に身体拘束廃止の理解してもらおうとともに、身体拘束を行わないケアの工夫と実現に努め、話し合いを行っている。	かながわ福祉サービス振興会の教材を使い、研修会を年に2回開催しています。身体拘束適正化委員会を、運営推進会議の都度開催しています。スピーチロックについての研修も行っています。「気付きシート」を職員に配布し、言葉遣いで感じたことを記録して改善に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的な勉強会にて、虐待行為や防止についての理解を全職員が共有するとともに、日々の職員の業務内でのストレスや不適切なケアを把握し、業務改善に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	プライバシーの保護、権利擁護に関する研修は行っている。ただ、日常生活自立支援事業や成年後見制度等に特化した研修は行っていないのが現状。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約を取りかわす1週間以上前には契約に関わる書類を事前に送付し、まず内容の確認を行って頂く。そのうえで質問等があれば契約日以前にお受けし納得をして頂いた上で契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月写真入りの報告書を送付し、ご入居者様の状況をお伝えすると同時に、ご要望があれば、連絡して頂くようお願いしております。また受診等のご要望があれば、必ず対応させて頂くよう心掛けております。	毎月家族に送付する写真入り報告書に対して、手紙などで意見や感想をもらっています。利用者の体調の変化や行動障害についての質問もあります。病院受診の希望があれば必ず対応しています。定期来訪する介護相談員を通じても利用者の意見や希望も聞いています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的なスタッフミーティングにて、提案や意見を言う機会があり、改善に努めている。但し、ミーティングに参加しなかったスタッフが全体で意見を述べる機会がなかなか設けられず、議事録の回覧のみになっている。	月に2回のスタッフミーティングで、職員から出る意見や提案を運営に反映しています。シフトは職員の希望を基にして決めています。事業所の祭事はスタッフミーティングでの話し合いで決めています。法人スタッフの来訪時に、事業所の要望を直接伝える環境が出来ています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	本部スタッフが直接来ることは少ないが、いつでも相談窓口や本部スタッフに連絡が出来る環境は整っている。また本部スタッフとの面談を行う事により、職場環境の改善等の要望を直接訴えることが出来る環境である。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	定期的に内部研修を行い、スタッフのスキル向上に努めている。例年はかなふく等で開催される外部研修に参加しそのスタッフが講師となりフィードバック研修を行った。今年は今までの資料を基に各スタッフが研修講師を担当し研修を行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	今年はグループホーム連絡会が開催されず、他のホームの管理者さんとの意見交換等の交流は無かったが、メールでホームの空室情報やスタッフの情報等の共有を図った。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	インテークや面談にて生活状況を把握しながらご本人が話しやすい雰囲気づくりを行うことでご本人が不安に感じている部分や引き出しやすくするよう努めている。思いに寄り添い、ご本人が安心して職員を受け入れてもらえるような関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	インテークや面談時に何気ない会話からご家族の思いや不安、要望等を引き出し、ご家族の本当の気持ちを引き出せるような、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	契約前の段階でご家族との面談は必ず行っており、決してGHは万能ではないことをお伝えし、その方のご家族を含めた支援に於いて、もっとも適切だと思われる支援を導き出し助言を行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様に入居者様同士や職員が助け合って暮らしていると感じて頂けるよう自分で出来る事はお願いし協力し合い、アットホームな雰囲気づくりを大事にし、暮らしを共にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	月に1回、近況報告書をお出しするとともに、ご家族が来訪時は、ともに過ごされる時間を大切にしている。時には入居者様にとって、どのようなケアが最適か、相談し合える関係づくりを大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今年はコロナ感染症の影響でなじみの場所に出掛けたり、知人、友人に会う機会を持つことが出来なかった。	「夢をかなえる個別ケア」という企画で、利用者一人ひとりの希望を聞いて、馴染みの場所や思い出の場所を訪問しています（コロナ禍の現時点ではできませんが）。将棋好きの利用者は、将棋ボランティアの来訪を楽しみにしています。月に3回音楽療法士が来訪し、昔懐かしい歌や音楽を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個別に話を聴くよう心掛けている。気の合う入居者様同士で過ごせる場面作りに努めている。入居者様同士の関係性を把握し職員で共有しトラブルが起きないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院が長期化し、結果、契約が解除という事態になっても、今後はどのような生活の仕方がその方にとって良い選択か等の相談を受けたと、ご要望がある限り、出来るかぎり支援できるよう心掛けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で言葉や表情などから真意を推し量り確認するよう努めている。コミュニケーションが困難な方には職員全員で個々の思いや意向について話し合い、本人の視点に立ち、考慮している。	普段の何気ない会話や仕草の中から、その時々 の思いを推し量っています。言葉でのコミュニケーションが難しい場合は、複数の職員が話し合 って意向を推察しています。昔の写真を見なが らの会話から、心の奥にある思いを引き出す こともあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日々の生活の中で、プライバシーを配慮しつつ、過去の生活歴や生活環境、サービス利用状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者一人ひとりの生活リズムやその日の状態を把握し、行動、動作を見極め出来ることに注目し、働きかけを行うよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	体調管理のケアを基本とし、その上でご本人、ご家族の意見を取り入れ、医療関係者からの助言を参考にスタッフの細かい気づきなどの意見も取り入れケア会議等で方針を決める。	モニタリングは毎月行い、ケアプランの見直しは6ヶ月ごとに行っています。ケア会議では時系列記録や申し送りノートなどの資料を基に、訪問内科医師や看護師、歯科医師の意見や職員の気づきを採り入れて検討し、見直しをしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	時系列の記録と気づきをメインとした記述式の記録とを併用し、申し送りやケア会議、訪問診療報告書等で共有しケア内容の追加や見直しに生かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	日々の状況、状態変化に合わせて、本人や家族の要望に応じ、通勤介助や物品購入等、柔軟な対応を行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ感染状況を見て、対策を行いながら、定期的に将棋ボランティアさんや音楽療法士さんに来所して頂き、近くの八百屋さんや買い物に出かけたりケアプラザのサロンイベント等に参加するといった支援を行っている。			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の訪問診療、月4回の訪問歯科診療を行っている。診察結果の報告は月に1度は必ず行う。通院の場合はご家族の協力を得たり、緊急時やご家族からの依頼があった場合、ホームで通院介助を行う。	内科、歯科の定期訪問診療があります。外科、皮膚科、眼科は提携医療機関で受診しています。かかりつけ医継続の利用者は2名で、家族かスタッフが受診に同行しています。定期的な血液検査で糖尿病の利用者へのケアもあります。事業所用車両があり、緊急対応への備えも充実しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回、訪問看護事業所から、訪問看護師に来てもらっている。入居者様の健康管理は勿論、スタッフの些細な疑問にも対応して頂き、助言等を得ている。緊急時の訪問看護と提携医療機関との連携も適切に図れている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院側、ご家族との情報交換を密にし、入居者様の情報は勿論、その他必要と思われる情報を提供し、退院時は病院側から入居者様の入院中及び現在の情報の提供を受け、退院後のケア内容作成に生かしている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時にご本人、ご家族に重度化対応の指針を示し、その内容についてご理解して頂くよう契約前に説明を行っている。終末期に関しては医療ときちんと連携を図り、ご本人、ご家族の意向が尊重され、安心して最期を迎えられるよう体制づくりに取り組んでいる。	入居時の本人、家族の思いや考えも、気持ちの変化は都度あり、丁寧に意向を傾聴しています。2019～2020年に看取りの例はありませんが、事例研修を年2回実施し、複数スタッフが外部研修にも参加しています。研修後は職場で研修内容の発表をして共有し、それらをマニュアルに整備しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	全ての職員が定期的な勉強会、研修を実施し、夜間における緊急時の対応等の周知徹底を図っており、マニュアル化も行っている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練を行っており、夜間対応避難訓練では毎年、近隣住民の方にご協力頂いて行っている。（今年はスタッフのみで行う）非常食・水は入居者・スタッフ合わせ約12人分を3日間分備蓄しているが、近隣の方に分け与えるといった事態になったとき、不十分であり、そういう事態になった時、どのように対応するべきかの対策も必要。	自主訓練を年間2回やっています。1回は日中の地震対応訓練、もう1回は夜間想定火災訓練です。火災訓練は非常階段を使った屋外への避難訓練で、近隣住民の参加もあります。災害対応備蓄は飲料水は法人本部、その他は事業所で調達し管理しています。ローリングストックをしっかりと行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様の気持ちを大切に考え、してあげるといったケアではなく、さりげないケアを心掛け、ご自分で決定して頂けるような声掛けを心掛けている。	「～さん」の声掛けをしています。接遇研修や、ベテラン職員によるOJTも行っています。ボランティアには来訪時に利用者のプライバシー保護について書面で案内しています。穏やかな声掛けを励行し、威圧的な言動は厳に禁止にしており、職員間で注意喚起も行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	スタッフが決めたことをご本人の承諾なしに行ったり、押し付けたりするのではなく、それぞれの入居者様に合わせ、ご自分で選択が出来るような声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日のスケジュールを細かく建てるのではなく、その日の入居者様のペースに合わせ、対応している。遅い時間までテレビを見たい入居者様がおられれば、ご本人がある程度満足するまでリビングでテレビを見て過ごして頂いたりとその方の希望を尊重するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人の馴染みの衣類や好みを取り入れられるよう支援している。ただ今年は買い物レクを全く行えなかったため、ご家族にお願いし新しい服を持ってきて頂いたり敬老会やクリスマス会、お誕生日会などで衣類等をプレゼントし、おしゃれをして頂くよう心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者様の中で食事の準備を一緒に行える方は居られないが、下膳が出来る方は行って頂いている。好みに関しては、量や形態、ご飯が召し上がれない方はパンなどをお出しし、少しでもおいしく召し上がって頂くよう心掛けている。	朝晩の食材提供は提携業者ですが、昼の食材は事業所で買い出しに行っています。季節食や祝い膳などではメニューに工夫を凝らしています。現在、利用者の食事の準備手伝いは少なくなり、刻み食の人も多くなってきています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の摂取量や好み、形態等を把握し日々の体調に合わせて調整している。栄養の偏り、水分不足にならないよう工夫を重ね支援するとともに、入居者に合わせ食事のタイミング、介助の方法にも努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	個々の入居者に合わせ声掛けや見守りを行い、困難な方に対しては、スタッフが毎食後直接口腔ケアを行うようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄サインを察知し、出来る限りトイレで排泄できるよう支援している。排泄パターンを把握し、時間での誘導、または入居者の仕草、行動等のサインを見落とさずトイレでの排泄に繋げるよう支援している。	1日の水分摂取量の観察、レクリエーションでの体操、自然な声掛けで自身の判断での排泄を見守っています。立ち上がりに不安のある利用者のみ、ドアをわずかに開き、様子を窺ったり声掛けをしています。事業所では、オムツを使用をしない自立の支援にこだわっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取量に留意し、また食事の時、大根おろしやヨーグルトや寒天等をご提供するなどして工夫している。日々の体操や散歩等を取り入れ便秘対策に取り組んでいる。また、それでも便秘解消に至らない場合は、医療との連携により緩下剤等の服薬を行う。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	原則、入居者ごとに入浴日時を決めることなく、入浴前に確認し了承を得た後入浴して頂いている。入浴時の脱衣の方法、洗髪、洗体の仕方等入居者様それぞれのやり方に合わせている。また入浴剤を使用し温泉気分を味わって頂けるような工夫も行っている。	平均して利用者は週に2回、1回20分ほどの入浴です。入浴好きの人には回数制限をしていません。キャスター付きシャワーチェアを常備しています。タオルなどは持ち込み自由ですが、シャンプーその他は事業所で用意しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼寝や就寝時間は個々の生活リズムに合わせて援助している。夜間の排泄、入眠パターンを把握し排泄介助に当たることで、睡眠障害を引き起こさず、適切な夜間の排泄介助を行っている。また、居室の明かり、温度、湿度、寝具のも気を配り、安眠して頂くよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者様に処方されている薬について医師、薬剤師の管理指導の下、訪問診療時等に説明を受け、説明書をファイリングし、スタッフはいつでも確認出来るようにしている。また、追加で処方があった時等、申し送りノートにその旨を記述し全スタッフが共有出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日常の役割として洗濯物を畳んだりテーブルを拭いたりして頂き、入居者様の役割として生きがいを感じて頂けるよう、また体操やレク等、日常的に楽しんで頂けるものに取り組んで頂けるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ感染症の影響で外出を主体としたレクを全く行っておりません。しかし、天気の良い日は近所の公園へ散歩、八百屋等の買い物などへ出かけることを心掛けております。	天気の良い日にはコロナ禍の現在でも公園まで散歩に出かけています。コロナ禍以前は初詣、花見、八景島のアジサイ祭り、花火大会、ショッピングモールへの買い物、レストランでの外食など多くの行事を行っています。家族同行の外出もしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	原則、ホームでは金銭管理を行わないので、金銭の所持を希望されている入居者様のみご本人の自己責任のもと、ご自身で管理して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族等からの電話があった場合、会話でのコミュニケーションが可能な方はお繋ぎし会話を楽しんで頂くよう支援している。年賀状等の便りはある方もおられるが、字が上手く書けないといった理由から、手紙を書くといったことが出来る入居者様は居られない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	料理の匂いなどで、入居者様に感じ取って頂けるようリビング内にキッチンが設けられている。トイレ、お風呂までの動線には壁に手すりが設けられおり安全に移動が出来、また全体が見渡せ、死角を作らず安全に過ごして頂けるよう工夫している。	リビングにはテーブル4台、椅子10脚、2人掛け、3人掛けのカウチがそれぞれ1脚ずつ、テレビ、加湿器、CDプレーヤーなど、スタッフから死角にならない場所に配置しています。採光が取れ明るい空間で、床の軋み、悪臭、騒音なども無く、利用者はパズルをしたりテレビを見たり静かに過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者様お一人おひとりが動きやすいようソファやテーブルの配置を工夫したり、自由にテレビを見たり、パズルが行えたりと自由に動ける居心地が良い空間づくりに心掛けている。また自由かつ安全に過ごして頂けるよう見守りしやすい配置にも気を配っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	なじみの家具やご本人の好きな物をそろえ、安全面を考慮しながら、ご本人、ご家族に可能な限りレイアウトしてもらい、その方が安心して落ち着いて過ごしてもらえるような環境づくりに努めている。	照明、エアコン、介護ベッドを設置しています。利用者は今までの生活で馴染んだものを持ち込んでいます。転倒などの事故につながらないように、動線に配慮した家具の配置と成っています。採光も良く、騒音のない静かな空間です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全に生活できるように障害物を最低限取り除き、常に環境整備を行っている。入居者の身体状況に合わせ物の配置に配慮している。		

令和3年 5月24日

目標達成計画

グループホーム ソラスト 富岡

作成日： 令和3年 5月 24日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		スタッフの記録用テーブルの周りや書類棚、また食品庫の中に段ボールが積まれていたり、整理整頓が十分に出来ていない。	スタッフのテーブル回りは勿論、食品庫、書類棚、倉庫といったところを整理整頓の日を少なくとも一月に一度設け整理整頓を行う。	整理整頓の日をシフトに組み込み、必ず行うようにする。	2ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月